

各 位

2026 年 10 月 15 日
株式会社リットーミュージック

中江有里さんの文筆生活 20 周年を記念した最新書評集『ホンの贈りもの』が 2026 年 10 月 21 日に発売に
ジュンク堂書店大阪本店、三省堂書店神田神保町本店、文学フリマなどでイベントも開催！



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）で文芸・カルチャー関連を扱う出版レーベル立東舎は、『ホンの贈りもの』（中江有里 著）を 2026 年 10 月 21 日に発売します。

本書は中江有里さんの文筆生活 20 周年を記念した書評集で、「「大人」になるとは、どういうことか 成長について考える」「過去の意味を知る 記憶とか歴史とか家族とか」「わかり得ない相手とどう付き合うか その存在の意味とは」「名付けようのない感情を言語化するために あの日の私に教えたい」「答えのないときの「答え」 知らない世界から見えてくる」という 5 つのテーマで選んだテキストを収録、さらに APPENDIX として「手塚先生からのまなび」を特別収録したほか、エッセイ「本にまつわるエトセトラ」5 編に加え、巻末には渡辺満里奈さんとの読書対談「読むことの楽しみ、書くという情熱」も掲載。1 冊を通して、新たな読書体験を誘発します。また 11 月 1 日にはジュンク堂書店大阪本店でサイン会を開催、11 月 15 日には三省堂書店神田神保町本店でトーク＆サイン会（トークのお相手は都甲幸治さん）を開催、11 月 8 日には文学フリ

マ東京 43 に中江有里さんが出展するなど、著者本人が書籍販売の現場に立ち会う機会も多く予定しています。この貴重な機会をお見逃しなく！

容赦なく時は流れ、人は「古い」という変化を迎える
「おやかに輪をきいて」窪美澄

人生の「終わり」とは、いつを指すのだろう。

本書の主人公・絵里子、は五十二歳。専業主婦。人生はおだやかに「終わり」に近づいていると感じていた。ローンは繰り上げ返済をほぼ完了。二歳年上の夫はあと六年で定年を迎え、一人娘はあと二年で大学を卒業する。

そんなある日、夫が風俗に通っていることを知る。愛情深く育てた娘は危険な道に走り、亡くなった父の事実が明らかになる。平凡ではあるけど、おだやかに終りを迎えるはずだった人生の「想定外」の展開に戸惑う絵里子。
「前編」の展開に戸惑う絵里子。
「前編」で読めると絵里子は長い間、台風の目の中にいたよう。周囲は変わり続けているが、彼女は無風の目の中から出ない。それは自身を守るという意味でもあるが、何十年と続いた年輪を変えたくないという強い願望にも見える。
しかし容赦なく時は流れ、人は「古い」という変化を迎える。

削れていく体質化紙で隠せないシミ、量販店の安値な音を身に着けて、体を浸食していく「古い」を受け入れていく。人生の「終わり」へとただただひたひたの身体は、年齢とともに誰かが感じるどころか、

久々に再会した同級生・詩織は整形によって美しく変貌し、同性の恋人までいる。「古い」に抗い、心のままに生きる親友に衝撃を受けた絵里子は家族のために生きる自分の人生を振り返る。

かつて愛し合っていた夫との関係を「何びきったゴム」とたとえるの勢で、もう元に戻らないが、ゴムは簡単に切れない。

経済的事情もあるが、妻であり母であることは、絵里子が選ばれた証だった。家族ありきの自身の存在価値にすがりつきながらも、「一度芽吹いた人間」としての気持ちは離れられない。

遠慮の末に妻をやめ、母をやめ、既存の価値観を投げ出し、台風の目から出る絵里子。夫も娘も、再婚を繰り返した絵里子の母も家族の役割を脱ぎ捨て、程よい距離の中で互いを尊重する気持ちが生まれてくる。

「おだやか」な人生はどこまで受け身だが、「たおやか」に生きるのには意志が試される。自らの人生の主権を得た絵里子に拍手を送りたくなった。

初出：日本経済新聞（二〇二〇年十一月十一日）

「大人」にもなるとは、どういふことか。成長について考える

015

れいはい震災の翌年二月に横断計を携えた小説家と共に被災地を訪ねた。復旧にはまだ遠い地を巡りながら、震災前に現地を訪ねたことを思い出していた。

震災もコロナも直接の被害はなくても、見えないだけで心は無事ではない。

記憶はある地点にたどり着くと、次の記憶を呼び起こす。東日本の震災から阪神淡路の震災へ。記憶の中の時間を行きつ戻りつしながら、現在のコロナ禍へと立ち返っていく。三人の記憶を朝毛で纏めるように丁寧に描き、思い込みや罪悪感という砂で覆い被せた心を呼びかきあがらせる。抗原検査、パルスオキシメーター、緊急事態宣言、リモートワーク、時短営業……そんな言葉が飛び交ったコロナ禍はいつ終わるのだろうか。

時間に区切りをつけるのは、どこかで終わらせたい人間の都合だ。本当は何も終わっていないし、ずっと続いている。三者二様の人生で奇妙に共通するのは親との関係性。親の世代の「当たり前」に耐え、静かな抵抗を見せ始めた三人、それぞれの「始まり」が重なるラストシーン。冒頭に記した孤独を薄れさせてくれるよう。「言葉が景色を変える」と本書にあるが、小説もいつもの景色を変える、と思う。

初出：講談社（二〇二〇年一月十七日号）

エッセイ 本にまつわるエッセイ

種々の漫画家

小学校高学年から「りぼん」なまじといったら少女漫画雑誌を読み、母の経営する喫茶店で「少年ジャンプ」「少年サンデー」などの少年漫画を食らうように読んで、図書館で「はだしのゲン」と出会い、テレビアニメで手塚治虫ワールドに魅了され、成人してから萩原望都を好んだ。

読むだけで飽き足らず、新聞広告のチラシの裏についた漫画を描いた。

ある日「りぼん」の広告で「漫画道具一式」通信販売を見つけた。「これがあれば雑誌に載っているような漫画が描ける！」と衝動的に注文してしまっただけで、いくらか忘れたか、当時の自分に払える金額じゃなかった。慌てて届いた道具をそのまま送り返した。

ほどなくテレビドラマに目覚めた。脚本家を目指してノートに物語を書き続けた。

漫画家の夢はテレビの脚本家、そして小説家へと移り、ひょんなことから芸能界デビューして女優になった。途中で物書きの仕事が加わった。漫画家への情熱は薄め、良き読者となった。

182

186



撮影・中嶋大助

読むことの楽しみ、
書くという情熱

中江有里さんと波辺満里奈さんは、公私にわたって親交があり、〇二三年には中江さん作の朗読劇『愛に似ている』でも共演しました。今回は「中江有里さんにお読みいただいた二冊」というお題で波辺さんが「愛と別と友情とLGBTQ」『北天狼 二冊』(分冊の八〇年)ソ、チギキ『少年が来る』(ハシ・ガンノ井手俊作訳)を語り、この二冊を起点に、話題は本から社会へ、そしてそれぞれの記憶や思いへと広がっていきます。本となれば話はどこからでも始まる——そんな二人の対談をお届けします。

カバ！波辺はなぜ狐なのか

波辺 今回の本の表紙の絵、可愛いね。狐のイラストなの？

中江 堀田利之さんというイラストレーターの方なんです。

波辺 素敵だね。でも、なんで狐なの？

中江 実は「こぎつね」。

波辺 ああ、そういうことなんだし。

中江 堀田さんの動物のイラストを見つけて、とっても可愛くなって思っていて、じゃあ動物だったらなにがいいかなと考えると……まあ、犬とか猫とかはよくあるモチーフだけど、狐ってあんまりないかも！という気づきでした。

波辺 「こぎつね」とか『半妖の夜叉姫』に……といった新井素直の作品が好きなので、狐がいいんじゃないかなって、それで狐でリクエストしたらこんな素敵なイラストを描いてくださったんです。

中江 とてもありがたいと思います。

波辺 可愛いねえ。

中江 とてもありがたいと思っています。

波辺 なるほどねえ。確かに狐にはちよっ

ホンの贈りもの



中江有里



■書誌情報

書名：ホンの贈りもの

著者：中江有里

定価：2,530 円（本体 2,300 円＋税 10%）

発売：2026 年 10 月 21 日

発行：立東舎／発売：リットーミュージック

商品情報ページ <https://rittorsha.jp/items/26317421.html>

CONTENTS

「大人」になるとは、どういうことか 成長について考える
過去の意味を知る 記憶とか歴史とか家族とか
わかり得ない相手とどう付き合うか その存在の意味とは
名付けようのない感情を言語化するために あの日の私に教えたい
答えのないときの「答え」 知らない世界から見えてくる
APPENDIX 手塚先生からのまなび
エッセイ 本にまつわるエトセトラ
対談 渡辺満里奈＋中江有里 読むことの楽しみ、書くという情熱

カバー装画：福田利之

PROFILE

中江有里（なかえ・ゆり）

女優・作家・歌手。1973 年大阪府生まれ。法政大学卒。

89 年芸能界デビュー。NHK 朝の連続テレビ小説『走らんか！』ヒロイン、映画『道草キッチ

ン』『学校』などに出演。NHK BS2『週刊ブックレビュー』で長年司会を務めた。著書に『日々、タイガース、時々、本。猛虎精読の記録』（徳間書店）、『水の月』（潮出版社）、『愛するということは』（新潮社）、『万葉と沙羅』（文藝春秋）などがある。読書好きで知られ、本にまつわる講演やエッセイ、書評を多く手がける。歌手としては、松本俊明氏とのユニット「スピン」を結成し、『それぞれの地図』を配信リリース。

EVENT

『ホンの贈りもの』刊行記念・中江有里さんサイン会！

日時：2026年11月1日（日）14時～

場所：ジュンク堂書店大阪本店

参加費：2,530円（書籍代）

詳細：https://honto.jp/store/news_1570022_14HB320_081.html

EVENT

文学フリマ東京 43

日時：2026年11月8日（日）12時～17時

場所：東京ビッグサイト 南1-4ホール

ブース：オフィスクレヨン（T-51～52）

参加費：1,000円(前売)・1,350円(当日スマチケ)・1,500円(当日窓口)※18歳以下入場無料

詳細：<https://bunfree.net/event/tokyo43/>

EVENT

中江有里さん『ホンの贈りもの』刊行記念トークイベント＆サイン会～書評が開く読書体験

日時：2026年11月15日（日）14時～

場所：三省堂書店神田神保町本店

参加費：1,100円（トークイベント）、サイン会の参加には、三省堂書店神田神保町本店にて書籍の購入が必要です

詳細：<https://jinbocho.books-sanseido.co.jp/events>

【立東舎】<https://rittorsha.jp/>

立東舎は文芸、マンガほか、さまざまな分野のポップカルチャーを紹介する出版活動を展開中。「乙女の本棚」などの好評シリーズのほか、手塚治虫、谷ゆき子らの幻のマンガの復刻などで感度の高い読者の話題を集めている出版ブランドです。

【株式会社リットーミュージック】<https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド＆レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー＆クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア＆コンテンツ事業を展開しています。多目的スペース「御茶ノ水 RITTOR BASE」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』やTシャツのオンデマンド販売サイト『T-OD』等のWebサービスも人気です。

【インプレスグループ】<https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：塚本由紀）を持株会社とするメディアグループ。「IT・デザイン」「音楽」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリュ

ーション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: pr@rittor-music.co.jp